

「夏の労働問題セミナー」開催される
多彩な研究テーマで議論

6月25日(土)に静岡県評会議室において、「夏の労働問題セミナー」が16名の参加で開催されました。布川所長と中澤主任研究員を助言者に、5名の方が報告を行いました。

種本良彦氏「職場における『なんでも相談活動』を提言する」

種本氏は、成果主義の導入により、格差の拡大や、労働者間のコミュニケーション不足により、精神疾患が増えている状態を指摘し、職場における「なんでも相談活動」を提言しました。労働者が抱える様々な悩みを、関係団体や専門家の力も借りて、労働組合の役員だけでなく、職場の全組合員で取り組み、仲間の絆を結び直していくことの重要性を提起しました。

河合利夫氏「篠原鉄工労組裁判闘争の経緯」

河合氏は、(株)シノハラがリーマン・ショック後、労働組合の主張を無視して、多額の借金を作り出したことに、怒りをもって告発しました。裁判で整理解雇の4要件を検証していくことや、支援の輪を広げていくことの重要性が話されました。また、会社との団体交渉、支援共闘会議の充実、中で働いている人との団結などが重要であることが指摘されました。

片桐正二郎氏「労働組合運動と地域労働運動の考察」

片桐氏は、現在の労働組合の組織人員や組織率を確認した上で、組織化に求められるものとして、企業内組合の克服、非正規労働者の取組、ITの活用、労働者教育の実施などが提案されました。労働組合が労働者の「居場所」となること、労働協約を地域に適用すること、横断的な組合運動として行政や経営者団体への訪問をすることなどが提起されました。

多田義幸氏「派遣労働者と正規労働者の生活行動時間比較」

多田氏は、社会生活基本調査の結果(2006年)より、正規従業員(男・女)、派遣社員(男・女)、パート(女)の雇用形態について、生活行動時間を比較した結果を紹介しました。この中で、派遣社員(男)の特徴として、仕事時間と休養時間の増加、学習と趣味の時間の増加、スポーツと社会参加活動の低下、交際・つきあいの低下が、あげられました。

中澤秀一氏「青年組合員の意識調査結果から見えるもの」

中澤氏は、自治労連などで活動している若手組合員の聞き取り調査結果について、事例を紹介しました。「組合は必要だと思っていても、他の人がやってくれているから、自分がやらなくてもよいて考える人が多いと思う」「執行部は青年部の活動を、もっとサポートしてほしい」「若い人は組合に悪いイメージはないが、全く何も知らず、何となく入らないという人が多いのではないか」等の意見が紹介されました。

今後の日程



7月15日(金)18:30

7月定例研究会 於：県評

7月16日(土)13:30

浜松支所総会・記念講演・研究発表
於：浜松労政会館

8月6日(土)13:00

第6回定期総会・記念講演

遠藤公嗣氏「仕事に見合った賃金って？」
～職務部分析・職務評価・同一価値労働
同一賃金～ 於：静岡労政会館

*連絡先：静岡市駿河区稲川 2-2-1 コハラサウスサイドビル 7F

静岡県労働研究所 TEL054-287-1293 FAX054-286-7973